



## 2025年4月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2024年12月6日

上場会社名 インスペック株式会社

上場取引所 東

コード番号 6656 URL <https://www.inspec21.com>

代表者（役職名）代表取締役社長兼代表執行役員（氏名）菅原 雅史

問合せ先責任者（役職名）執行役員管理部長（氏名）佐藤 保 TEL 0187-54-1888

半期報告書提出予定日 2024年12月13日 配当支払開始予定日 -

決算補足説明資料作成の有無：有

決算説明会開催の有無：有

（百万円未満切捨て）

### 1. 2025年4月期第2四半期（中間期）の業績（2024年5月1日～2024年10月31日）

#### （1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年4月期中間期	1,005	541.0	1	-	13	-	10	-
2024年4月期中間期	156	△50.5	△340	-	△354	-	△363	-

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年4月期中間期	2.51	2.49
2024年4月期中間期	△90.77	-

（注）2024年4月期中間期の潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり中間純損失であるため記載しておりません。

#### （2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年4月期中間期	3,556	1,100	25.1
2024年4月期	3,739	1,079	23.6

（参考）自己資本 2025年4月期中間期 893百万円 2024年4月期 883百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年4月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2025年4月期	-	0.00	-	-	-
2025年4月期（予想）	-	-	-	3.00	3.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2025年4月期の業績予想（2024年5月1日～2025年4月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,350	40.9	100	-	100	-	80	-	19.97

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

（注）当社では年次での業績管理を行っておりますので、第2四半期（中間期）の業績予想の記載を省略しております。

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年4月期中間期	4,006,800株	2024年4月期	4,006,800株
② 期末自己株式数	2025年4月期中間期	192株	2024年4月期	192株
③ 期中平均株式数（中間期）	2025年4月期中間期	4,006,608株	2024年4月期中間期	4,004,101株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当中間決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 中間財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 中間貸借対照表 .....	4
(2) 中間損益計算書 .....	6
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 中間財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(重要な後発事象) .....	8

## 1. 当中間決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当中間会計期間（2024年5月1日～2024年10月31日）における世界経済は、高インフレの落ち着きなどを背景に底堅い成長を維持した一方、中国経済の減速、ウクライナや中東地域での地政学リスクの長期化など、先行き不透明な状況が続いております。わが国経済につきましては、資源価格の高騰に伴う物価上昇や為替変動による影響が続いているものの、雇用・所得環境の改善を背景に、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

このような経営環境の中、当社の当中間会計期間の売上状況につきましては、前事業年度下期から当事業年度上期にかけて獲得した受注案件を堅調にこなし、当社製品が計画通り顧客に納入・検収されたことにより、当該期間の売上高は概ね当初計画通りに推移いたしました。

当中間会計期間の受注状況につきましては、当社の主力製品であるロールtoロール型検査装置及び高性能フラットベッド型検査装置の受注をそれぞれ国内外の顧客から獲得し、受注額は1,117百万円（前年同期比39.9%増）となる一方で、当中間会計期間末における受注残高は、当該期間末までに受注案件を売上計上したことにより756百万円（前年同期比59.1%減）となりました。当中間会計期間末における受注残高に加え、それ以降に受注し2025年4月期中に売上計上予定となる案件が順調に積み上がっており、通期の計画は達成できる見込みです。

現在、当社子会社である台湾英視股份有限公司を拠点として海外展開を強化し、新たな販売網を構築するなど、以前にも増して国外の受注活動にも注力しております。今後も生成AI向け半導体を中心に半導体市場が拡大する見通しであることを追い風に受け、検査装置需要も高まる見込みであることから、さらなる受注獲得に向けて取り組んでまいります。

新事業として取り組んでいる直描露光装置は、EV市場の低迷によりEV向け露光装置RD3000シリーズの導入が遅れております。一方、EV向け露光装置の開発と並行して開発を進めてまいりましたエレクトロニクス市場向けの高性能露光装置は、すでに露光性能の評価も進み、有力ユーザーの導入に向けた協議を進めております。高品質の露光と高速性を併せ持った本露光装置の性能は、広くFPCメーカーのニーズに合致するものであり、今後の受注獲得に全力を挙げて取り組んでまいります。

以上の結果、当社の当中間会計期間の売上高は1,005百万円（前年同期比541.0%増）、営業利益は1百万円（前年同期は営業損失340百万円）、経常利益は13百万円（前年同期は経常損失354百万円）、中間純利益は10百万円（前年同期は中間純損失363百万円）となりました。

当社は「基板検査装置関連事業」の単一セグメントであるため、セグメント別の業績は記載しておりません。

### （2）財政状態に関する説明

当中間会計期間末における資産の部は、前事業年度末に比べ183百万円減少し、3,556百万円となりました。これは主に、現金及び預金87百万円の減少、電子記録債権84百万円の増加及び仕掛品154百万円の減少によるものであります。

負債の部では、前事業年度末に比べ204百万円減少し、2,456百万円となりました。これは主に、短期借入金100百万円の減少及び長期借入金77百万円の減少によるものであります。

純資産の部では、前事業年度末に比べ20百万円増加し、1,100百万円となりました。これは主に、中間純利益10百万円の計上及び新株予約権の増加10百万円によるものであります。

（キャッシュ・フローの状況）

当中間会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ84百万円減少し、509百万円となりました。

当中間会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、獲得した資金は157百万円となりました。これは主に、棚卸資産の増加額157百万円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、使用した資金は59百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出62百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、使用した資金は183百万円となりました。これは主に、短期借入金の純増減額による支出100百万円及び長期借入金の返済による支出77百万円によるものであります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年4月期中間会計期間の業績につきましては、2025年4月期通期の業績予想に対して堅調に推移しております。販売戦略に関しまして、2024年12月4日～6日に中国・深圳で開催されている「HKPCA Show 2024」への出展や、2025年1月22日～24日に東京ビッグサイトで開催される「第39回 ネプコン ジャパン-エレクトロニクス 開発・実装展-（主催：RX Japan株式会社）」への出展を予定しており、国内外を問わず当社製品をアピールする機会へ積極的に参加し、より多くの商談に結びつけられるよう努めてまいります。これらの取り組みが結実していることなどから、第3四半期以降におきましても引き続きフラットベッド型検査装置の受注を獲得しており、期初から発表日現在の受注額は1,204百万円、受注残高は843百万円となっております。そのため、2025年4月期の通期の業績予想につきましては、2024年6月14日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

なお、業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づき当社が判断した見通しであり、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年4月30日)	当中間会計期間 (2024年10月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	738,586	650,609
受取手形、売掛金及び契約資産	822,173	831,031
電子記録債権	102,469	186,789
仕掛品	867,471	712,886
原材料及び貯蔵品	201,574	171,449
その他	53,777	33,845
流動資産合計	2,786,053	2,586,611
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	440,734	431,407
構築物(純額)	21,263	19,892
機械及び装置(純額)	233,107	193,634
車両運搬具(純額)	68	33
工具、器具及び備品(純額)	49,369	43,278
リース資産(純額)	16,754	12,846
土地	95,440	95,440
建設仮勘定	45,367	131,167
有形固定資産合計	902,104	927,701
無形固定資産		
その他	41,177	32,440
無形固定資産合計	41,177	32,440
投資その他の資産		
その他	10,180	9,619
投資その他の資産合計	10,180	9,619
固定資産合計	953,461	969,761
資産合計	3,739,515	3,556,372
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	62,805	41,805
短期借入金	1,500,000	1,400,000
1年内返済予定の長期借入金	154,224	154,224
未払法人税等	4,773	7,249
未払消費税等	—	34,287
契約負債	51,461	17,620
製品保証引当金	4,531	3,683
賞与引当金	34,307	34,998
役員賞与引当金	3,000	6,000
その他	72,184	64,976
流動負債合計	1,887,288	1,764,845
固定負債		
長期借入金	661,310	584,198
長期末払金	95,992	95,992
繰延税金負債	2,809	2,287
リース債務	12,632	8,571
資産除去債務	317	318
固定負債合計	773,060	691,367
負債合計	2,660,349	2,456,212

(単位:千円)

	前事業年度 (2024年4月30日)	当中間会計期間 (2024年10月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	810,462	810,462
資本剰余金	211,516	211,516
利益剰余金	△137,943	△127,895
自己株式	△426	△426
株主資本合計	883,607	893,656
新株予約権	195,558	206,504
純資産合計	1,079,166	1,100,160
負債純資産合計	3,739,515	3,556,372

(2) 中間損益計算書

(単位:千円)

	前中間会計期間 (自 2023年5月1日 至 2023年10月31日)	当中間会計期間 (自 2024年5月1日 至 2024年10月31日)
売上高	156,791	1,005,029
売上原価	82,293	586,355
売上総利益	74,498	418,674
販売費及び一般管理費	415,185	417,614
営業利益又は営業損失(△)	△340,687	1,059
営業外収益		
受取利息	4	31
為替差益	3,994	898
補助金収入	3,630	31,069
雑収入	949	119
その他	994	505
営業外収益合計	9,573	32,624
営業外費用		
支払利息	15,803	18,049
貸倒引当金繰入額	2,981	318
手形売却損	2,132	978
株式交付費	1,291	—
シンジケートローン手数料	1,306	1,006
営業外費用合計	23,515	20,353
経常利益又は経常損失(△)	△354,629	13,330
特別利益		
固定資産売却益	49	—
特別利益合計	49	—
特別損失		
固定資産圧縮損	3,630	—
特別損失合計	3,630	—
税引前中間純利益又は税引前中間純損失(△)	△358,210	13,330
法人税、住民税及び事業税	1,611	3,804
法人税等調整額	3,628	△522
法人税等合計	5,239	3,281
中間純利益又は中間純損失(△)	△363,449	10,048

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2023年5月1日 至 2023年10月31日)	当中間会計期間 (自 2024年5月1日 至 2024年10月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前中間純利益又は税引前中間純損失(△)	△358,210	13,330
減価償却費	97,111	73,325
株式報酬費用	10,494	10,945
貸倒引当金の増減額(△は減少)	2,981	318
製品保証引当金の増減額(△は減少)	△3,723	△848
支払利息	15,803	18,049
シンジケートローン手数料	1,306	1,006
株式交付費	1,291	—
受取利息及び受取配当金	△4	△31
雑収入	△949	△119
有形固定資産売却損益(△は益)	△49	—
固定資産圧縮損	3,630	—
補助金収入	△3,630	△31,069
売上債権の増減額(△は増加)	1,281,394	△93,178
棚卸資産の増減額(△は増加)	△761,288	157,414
未収消費税等の増減額(△は増加)	△80,831	9,936
仕入債務の増減額(△は減少)	△16,321	△21,000
未払金の増減額(△は減少)	△2,232	△7,319
未払消費税等の増減額(△は減少)	△37,385	34,287
契約負債の増減額(△は減少)	—	△33,841
その他	△16,099	17,675
小計	133,287	148,881
利息及び配当金の受取額	4	31
利息の支払額	△14,940	△18,441
補助金の受取額	—	31,069
法人税等の支払額	△21,470	△3,801
営業活動によるキャッシュ・フロー	96,880	157,740
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△25,620	△62,688
有形固定資産の売却による収入	49	—
無形固定資産の取得による支出	△16,467	—
定期預金の純増減額(△は増加)	26,997	2,997
投資活動によるキャッシュ・フロー	△15,041	△59,691
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
新株予約権の行使による株式の発行による収入	8,897	—
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	△100,000
長期借入金の返済による支出	△77,112	△77,112
リース債務の返済による支出	△5,201	△4,919
配当金の支払額	△11,905	△8
シンジケートローン手数料の支払額	△1,306	△1,006
自己株式の取得による支出	△54	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△86,683	△183,046
現金及び現金同等物に係る換算差額	66	17
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△4,777	△84,979
現金及び現金同等物の期首残高	437,131	594,574
現金及び現金同等物の中間期末残高	432,353	509,594

（4）中間財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。